

研究紹介

社会形成能力

社会形成能力を育む教育の推進

～キャリア教育への取組を通して～

下松市立東陽小学校長

國澤 尚 明



一 はじめに

下松市小学校長会は、昨年度末の笠戸小・江の浦小の閉校に伴い、八名で構成されることになった。コンパクトな分、結束力は堅く、わからないことも気兼ねなく訊くことができるのが大きな強みである。研修などにおいても、情報交換を密に行い、先進的な取組を共有して、各校の実態に合わせて実践を展開している。

研究課題については、子ども一人ひとりのキャリア発達を促すキャリア教育を推進していくことが重要であるところから、キャリア教育への取組を通して、課題に迫ることにした。

二 研究の視点

キャリア教育の推進に当たっては、まず各学校におけるキャリア教育推進上の課題を洗い出した。多くの課題があがってきたが、それらの課題を踏まえ、研究の視点を次の二点に絞った。

(一)組織的に推進するために、校長と

してどのようなリーダーシップを発揮すべきか。

(二)基礎的・汎用的能力を育成するために、校長としてどのようなマネジメントをすべきか。

校長はリーダーシップとマネジメント力を合わせもち、状況に応じて発揮することが必要であることは、ふれるまでもないが、本研究においては、その両者の機能の違いに着目し、あえて使い分けることにした。また、視点を明確にするために、問いの形で表現することにした。

三 研究の具体

主に次のことに取り組んでいる。

(一)組織的な推進

ア 課題の把握とビジョンの提示

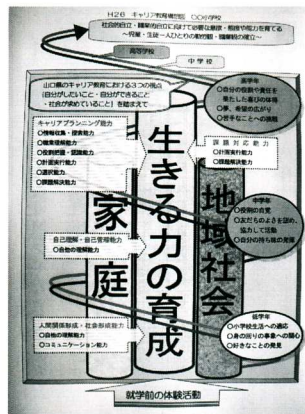
イ 推進体制の整備

ウ 教職員研修の充実

エ 学年別年間指導計画の作成及び修正

組織的な推進を図るために、各

校の学年別年間指導計画を持ち寄り、紹介しあって、自校の計画に修正を加えた。また、キャリア教育ビジョンをわかりやすく教職員に示すために、新たに構想図を作成した学校もあった。



キャリア教育構想図

(二)基礎的・汎用的能力の育成

ア 自己理解・自己管理能力の育成をめざした取組

A校では、児童の自尊心の低さが課題であった。そこで、「自尊心を育て高めること」を努力点や研究主題に掲げ、全校体制で取り組んだ。

イ キャリアプランニング能力の育成をめざした取組

B校では、おぼろげながらも児童に自分の一生を考えさせることで、キャリアプランニング能力の育成を図ろうと、二分の一人形式に向け、「自分史(人生絵巻)づくり」に取り組ませた。

四 おわりに

研究を進める中で、次のことが明らかになりつつある。

・教職員のキャリア教育への認識が決して十分であるとはいえない環境では、組織的な推進に当たって、校長の強力なリーダーシップが必要不可欠であること。

・実践的な場面においては、より教育的価値の高い内容になるような、また保護者や地域の潜在的なニーズを掘り起こすような、創造的なマネジメントが求められていること。

研究発表では、アウトプット(取組内容)だけでなく、子どもの変容によるアウトカム(取組成果)も提示し、皆様の御批正を仰ぎたいと考えている。



自分史(人生絵巻)